

情報出版企業として

①営業部

営業部初の社員○○○○さんは三菱化成工業(現三菱化学株)で有機合成の部門長を勤め、定年後新たな志を持って全く異分野の仕事に進んで足を踏み入れ、その後五年間にわたり理論的な電話営業のスタイルを地道に作り育て上げた功労者である。営業部が発足しても電話営業に伴う発送事務はフジテクに対価を払って依頼していた。その日のアポイントを毎日フジテクに届けるやり方を半年ほど続けた。實際上、セミナーを月二本定期的に開催していたからDM用のパンフレットや発送のスペースも確保しなくてはいけない。七坪のフロアでセミナーと本の発送/管理の両方を行うことは物理的に無理があったのである。しかし、「液クロ」の前に発刊していた「二軸エクストルーダー」や「R.B.A.S.E」等の在庫スペースも確保する必要があり、昭和六十二年四月にアイコー企画印刷の紹介で浅草の東京本願寺内の共栄社倉庫の一面を月額一万五千円で一坪借りることとした。

その後、同年九月の「国際版超臨界技術の理論と応用」発刊及び十二月の「クリーンルームの運転・管理・清浄化ハンドブック」発刊をきっかけとして営業部員を増員すると同時に発送事務も自社で行うこととし、発送ス

ペースの確保が急務となった。とりあえずは、セミナー用DMの発送場を確保するため本郷三丁目の橋本ビルのワンルームマンションの一室を新たに賃借することとした。

二人目の営業部員は当時フジテクに籍のあった○○○○さんだった。独特のハスキーボイスで繊細かつクレバーな営業を心がけ、NTSに移ってからは発刊点数のそれほど多くない時期に多品種を相乗せするスタイル作りに少なからず影響のあった得難い人材だった。更に六十二年七月の「設備診断と予知保全」発刊をきっかけとして三人目の営業部員を募集したが長続きせずしばらくは二名で営業を行っていた。九月に「食品タンパク質ハンドブック」、十一月に「食品開発のためのバイオ技術活用法」を発刊したため、十二月に入り再度三人目の営業部員を募集することとした。ある日、映画「スターウォーズ」のキャラクター「ヨーダ」にそっくりの、大きなとろんとした目をしたいかにも仙人然とした風体の小柄な男性が面接に現われた。ひとしきり面談を試みた後、個性はあるけどちょっと違うなと思いつつ、ドアを出ようとする彼に別れの挨拶を交わすと、当の本人は「じやー社長！来週の月曜日から入社します！」と元気に応えるではないか。「エッ！」と思つた時には、扉の向こうに姿を消した後だった。その三人目の営業部員○○○○さん、通称「○さん」の営業は初めから少し危なげであった。受話器へ伸びる手はなかなか威勢がいいのだが社名がしばし口にでない。「エー NSTの○○です」「NNTの○○です」

等、口にしやすい「NNTの○○」はとりわけ好みであった。漸く社名を覚えても「ハンドブック」の営業は「ハンドバック」の営業に、クリーンルームの「プロセス管理」は「プロセス管理」に変わってしまう。しかし、それでも○○○○さんの理誦派、○○○○さんの感性派、○○○○さんのいわば問答無用派という現在も主流となっている三者三様の営業部のスタイルが社内に育ちつつあったのである。又、発送事務は当初営業部員が手分けして行ったが、発数の増加に伴い六十二年初めに週三日のアルバイトを採用した。だが、すぐに三日では間に合わなくなり半年後に常勤者に切り替えた。その○○○○さんが、しばらくの間発送事務をまかなうことになった。更に、○○○○さんの入社に先立つこと三カ月前の昭和六十三年九月には○○○○部長が企画部員として入社していた。

こうして昭和六十三年十二月には、私他に営業部員三名、発送事務一名、経理一名、企画一名の総勢七名の賑わいとなり、本の発送スペースの確保の他、来客の応対もしばしばとなつては七坪余の盛和ビルは急に手狭になつてきた。その上、セミナーの発送管理が離れて不便である。そこで、昭和から平成へと元号が変わつた翌年四月に盛和ビルから本郷五丁目のメゾン鈴博ビルに転居することにした。三度目の引越である。

(先月号で、営業部の発足を「液クロ」発刊をきっかけに○○○○さんが入社した昭和六十二年九月としたが、「液クロ」発刊と○○○○さんの入社を同年一月に訂正します。)

掲示板

今月の人事

七月一日付異動 営業部
七月十五日付退社 営業部
入社 営業部

社報

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

七月二十五日(日) 八月二十二日(日)

本社発送室漏水す

去る七月十三日に東京地方を襲った局地的な集中豪雨により、本社地下の発送室が一部漏水に見舞われた。発生箇所は発送室最奥部の上部壁面で、丁度一階玄関脇の植込部分の真下にあたる。幸いにして、漏水箇所は通路のごく一部で、水の量も大した事なく大事に至らずにすんだ。十七日には応急の補修工事が終わり、近いうちに完全復旧する見通しである。

創刊からNTSニュースを支えてくれた○○○○両委員が卒業することとなった。充実した内容を保つてきたのもお二人の情熱のお陰だと感謝しております。本日に御苦労さまでした。
なお、本号からは新たに、○○○○さん(N.S.H.T.)、○○○○さん(営業部)、○○○○さん(編集企画部)の三名が加わり、旧メンバーに劣らぬ強力な布陣でお送りいたします。この新メンバーによって社内報がどう変わっていくのか、どうぞお楽しみに！(伊)

NTSニュース一九九九年七月号(通巻十三号)

一九九九年七月二十五日発行